

病害虫情報 No. 1

麦類赤かび病の防除を必ず実施しましょう！

【防除適期：六条大麦・小麦 = 開花期，二条大麦 = 穂揃い10日後】

[現在の状況]

農研速報(3月28日および3月31日発表)によると、麦類の生育は平年より進んでおり、六条大麦では平年より5～6日、小麦では平年より3～7日、出穂が早まると予想される。向こう1か月の気象予報(4月4日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。

表1 麦類の出穂期予想

場所	麦種	播種期	出穂予測値	平年値
龍ヶ崎	六条大麦	11月10日	4月4日	4月9日
	小麦	11月10日	4月13日	4月20日
		11月20日	4月20日	4月25日
水戸	六条大麦	11月6日	4月12日	4月18日
	小麦	11月6日	4月25日	4月28日

農研速報(農業総合センター農業研究所 3月28日および3月31日発行)より抜粋

[防除対策]

本病原菌は、麦の開花期から10日程度の間が最も感染しやすい。この期間に降雨が続き、気温が20℃以上になると本病の発生が多くなるので、今後の気象に十分注意し、防除を徹底する。

防除適期は、六条大麦・小麦では開花期、二条大麦では穂揃い10日後頃である。麦の生育状況を正確に把握して、表2を参考に適期に必ず薬剤散布を行う。

1回目の薬剤散布後、発病の好適条件が続く場合は、7～10日後に2回目の散布を行う。ただし、出穂期以降1回しか使用できない薬剤があるので注意する。

表2 赤かび病に登録のある主な薬剤(平成21年4月1日現在)

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数 - 本剤の使用回数	対象作物	有効成分
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	14 - 3 (出穂期以降は2)	小麦	チオファネートメチル
		30 - 3 (出穂期以降は1)	麦類 (小麦を除く)	
トップジンMゾル	1,000～1,500倍	14 - 3 (出穂期以降は2)	小麦	
	1,500倍	14 - 3 (出穂期以降は1)	麦類 (小麦を除く)	
ベルコート水和剤	1,000～2,000倍	21 - 3 (出穂期以降は1)	小麦	イミノクタジン
ベフラン液剤25	1,000～2,000倍	14 - 3 (出穂期以降は1)	小麦	
シルバキュアフロアブル	2,000倍	7 - 2	小麦	テブコナゾール
		14 - 2	大麦	
チルト乳剤25	1,000～2,000倍	3 - 3	小麦	プロピコナゾール
		21 - 1	大麦	
コロナフロアブル	400倍	- 5	麦類	硫黄
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	14 - 3	麦類	クレソキシムメチル

注意 印の薬剤は、通常散布の他に無人ヘリヤブームスプレーヤーによる高濃度少量散布についても登録があります。詳しくは別途確認してください。農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項等を確認のうえ、周辺作物への飛散に留意して使用してください。